



## グループ事業のご報告

第121期年次決算 2011.4.1~2012.3.31

証券コード：3407





## 前期比 増収・減益

### 住宅事業は過去最高益を達成するも、ケミカル事業を中心に苦戦

当社グループの当期における連結業績は、住宅事業が好調に推移したことなどから、売上高は1兆5,732億円で前期比173億円の増収となったものの、ケミカル事業において原燃料価格の高騰や円高の影響を大きく

受けたことなどから、営業利益は1,043億円で前期比187億円の減益、経常利益は1,076億円で前期比107億円の減益、当期純利益は558億円で前期比45億円の減益となりました。

※当期より、ケミカル事業におけるナフサ転売に関する会計方針を変更しました。これに基づき再算定した結果を記載しております。これにより前期までの売上高は従来に比べ、2009年度は414億円、2010年度は424億円、それぞれ減少しました。なお、本件による営業利益、経常利益、当期純利益への影響はありません。



代表取締役会長

伊藤 一郎

代表取締役社長

藤子 建嗣

“グループ事業のご報告”をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

当期における我が国経済は、欧州の財政危機による景気後退が世界経済へ波及することへの懸念が強まる中、上半期前半には堅調を維持していた中国をはじめとする新興国向けの輸出産業が下半期以降減速するなど、経済環境は大きく悪化しました。また、東日本大震災の影響による生産活動停滞からの復旧は進んだものの、円高の長期化や原燃料価格の高騰などにより企業収益は圧迫され、厳しい事業環境が続きました。

このような状況の中で、当期の当社グループの連結業績は、住宅事業が好調な受注を背景に過去最高益を達成した一方で、ケミカル事業を中心に原燃料価格の高騰や円高の影響を大きく受けたことにより、増収・減益となりました。この結果を踏まえ、期末配当を1株につき7円といたします。これにより第121期の年間配当額は、中間配当と合わせて1株当たり14円となります。

当社グループでは、2011年度より、2015年度を最終年度とする中期経営計画「For Tomorrow 2015」を実行中で、「健康で快適な生活」「環境との共生」の実現をグループビジョンとし、グループをあげて“昨日まで世界になかった”価値の提供を目指しています。そのために従来から進めている、グローバルリーディング事業の展開を加速することに加え、環境・エネルギー、住・くらし、医療関連分野の拡大を図り、新しい社会価値の創出を推進しています。これに基づき、本年4月には、米国における大手救命救急医療機器メーカーであるZOLL Medical Corporationを買収し、連結子会社化いたしました。

今後とも「For Tomorrow 2015」の実現を通じて企業価値の向上を図ってまいりますので、ご理解を賜りますよう心からお願い申し上げます。

2012年6月

# 中期経営計画「For Tomorrow 2015」 成長に向けた取り組みを加速



当社グループでは、昨年4月より2015年度を最終年度とする中期経営計画「For Tomorrow 2015」をスタートさせました。初年度となる2011年度は、下半期を中心に厳しい事業環境が続きましたが、着実に事業戦略に沿った施策を実行し、更なる成長に向けた布石を打ちました。

## 1. 中期経営計画「For Tomorrow 2015」とは？

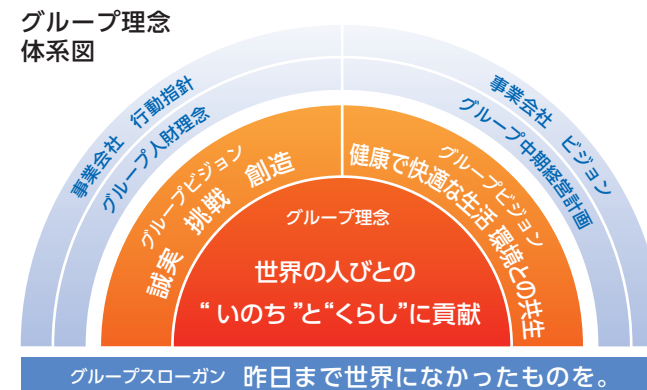
中期経営計画「For Tomorrow 2015」では、グループ理念である「世界の人びとの“いのち”と“暮らし”に貢献」するために、『健康で快適な生活』と『環境との共生』を目指し、グループをあげて“昨日まで世界になかった”価値を提供することを基本コンセプトとしています。

具体的には、①世界でリーダーシップを取れる事業について、新興国を中心とした成長需要を積極的に取り込んでいく「グローバルリーディング事業の展開」と、②環

境・エネルギー、住・暮らし、医療という3つの分野で社会が必要とする新たな価値を生み出す「新しい社会価値の創出」という、2つの事業戦略に取り組みます。また、「新しい社会価値の創出」では、当社の事業領域の広さを活かし、グループ融合的に新規事業を創出するための“これからプロジェクト”を各分野に設置しました。これらの戦略を実行するため、5年間で1兆円規模の長期投資を実行し、2015年度には売上高2兆円、営業利益2,000億円の達成を目指す計画です。



# For Tomorrow 2015



## 2. 中期経営計画「For Tomorrow 2015」の進捗

初年度となる2011年度は、各戦略を着実に推進し、成長への布石を打ちました。「グローバルリーディング事業の展開」では、世界トップレベルの技術力を誇るアクリロニトリル (AN) で、タイの新工場の立上げを推進するとともに、韓国の増設計画やサウジアラビアにおける事業化検討も進めました。また、エコタイヤ向け合成ゴムのシンガポールにおける新工場の建設工事を順調に進めているほか、リチウムイオン二次電池用セパレータ「ハイポア™」の生産能力の増強や車載用途へのマーケティング強化を図りました。

「新しい社会価値の創出」では、環境・エネルギー分野でFDK株式会社と電力利用の効率化を可能にする蓄電デバイスであるリチウムイオンキャパシタでの合併会社を設立し、

(単位:億円)

事業領域別計数計画	売上高		営業利益	
	2010	2015	2010	2015
ケミカル・繊維	8,086	8,800	686	750
住宅・建材	4,566	5,700	386	500
エレクトロニクス	1,583	2,500	143	400
医薬・医療	1,164	1,800	70	250
その他・調整	160	200	(55)	(50)
小計	15,559	19,000	1,229	1,850
これからプロジェクト	—	1,000	—	150
合計	15,559	20,000	1,229	2,000

※当期より、ケミカル事業におけるナフサ販売に関する会計方針を変更した結果、2010年度の売上高は424億円減少しました。なお、本件による営業利益への影響はありません。

さらに、米国Crystal IS社買収により紫外線LED事業に参入しました。住・くらし分野では、グループ内外の先進的な技術を集めたモデルハウス「HH2015」での実証を開始しました。医療分野では、テラ株式会社との細胞プロセッシング装置の共同開発の開始、そして米国の救命救急医療機器メーカーであるZOLL Medical Corporation (以下「ZOLL社」) の買収など、他社との提携や買収も含めた新たな飛躍への取り組みを加速化させています。

2011年度の主な設備投資	
2011年度完工	2011年度未工事中
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 医薬・医療セグメント                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療材料研究所の新設(宮崎県)</li> </ul> </li> <li>● エレクトロニクスセグメント                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイポア工場の増設(第2系列)(宮崎県)</li> <li>・ハイポア工場の増設(第3系列)(宮崎県)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ケミカルセグメント                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオマス発電設備の新設(宮崎県)</li> <li>・AN工場の増設(韓国)</li> <li>・合成ゴム工場の新設(第1期)(シンガポール)</li> </ul> </li> <li>● 繊維セグメント                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・スパンボンド工場の新設(タイ)</li> </ul> </li> <li>● エレクトロニクスセグメント                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイポア工場の増設(第4系列)(宮崎県)</li> </ul> </li> </ul>





**省エネ・低炭素外構ゾーン**  
蒸散ルーバー等

**自然エネルギーゾーン**  
太陽光発電両面受光型等

**シェアハウスゾーン**  
コミュニケーションボード等

**在宅医療ゾーン**  
在宅血液透析等



**「HH2015」実証棟**  
2011年12月完成

**緑育ゾーン**  
水耕栽培一体型キッチン等

**ペット共生ゾーン**  
ペット見守りシステム等

**低炭素ゾーン**  
エアロバイク型発電機等

### 3. 今後の取り組み施策

「For Tomorrow 2015」の策定以降、円高による輸出型事業の収益悪化や欧州経済危機の長期化によるケミカル、エレクトロニクスを中心とした需要不振など、経済環境は大きく変化しました。この環境変化に対応するために、当社グループでは、中期経営計画で定めた戦略を引き続き確実に実行するとともに、追加施策として収益構造改善への取り組みにも注力します。業務効率化の徹底、原価率の低減、物流効率化を中心に200億円以上の改善を図ることで、2015年度の計数目標達成に向け、より強固な事業基盤の構築を進めます。また、2012年度においては、既存事業において約1,000億円の設備投資を意思決定する予定です。

### 4. ZOLL社の買収によるヘルスケア事業拡大

また、本年4月には米国ZOLL社を買収し、連結子会社化しました。当社グループが新しい価値の創出を目指す医療分野では、主に、救命救急医療(クリティカルケア)、医療IT、細胞培養をターゲットとしていますが、クリティカルケアについては、グループ理念に合致し、既存の医薬・医療事業とのシナジー拡大が期待できる領域であり、かつグローバルに成長が見込める事業であるという点から、本格参入の機会を検討していました。

そしてこの度、世界の医療市場において圧倒的な影響力を持つ米国において、高い評価とブランド力、さらに薬事承認への対応力や製品化について豊富な経験を持つZOLL社



# For Tomorrow 2015

と、当社グループの目指すべき姿が一致したことから、買収に合意しました。今後、ZOLL社の成長製品である「LifeVest™」などの拡販により米国およびその他地域への事業拡大を目指すとともに、当社グループの既存事業とのシナジーを図ることで、医薬・医療事業を含むヘルスケア事業を、ケミカル、住宅に続くコア事業として成長させていきます。

(ZOLL社については10ページ:CLOSE UPをご覧ください)

### 5. 2012年度の見通しは？

売上高につきましては、海外需要の回復を見込むケミカル事業や、請負事業において好調な受注を背景に引渡戸数の更なる増加が見込まれる住宅事業、そしてZOLL社買収により新たにクリティカルケア事業が加わったヘルスケア事業を中心に、増収の見込みです。

営業利益につきましても、スマートフォンをはじめとする携帯端末向け電子部品などでの販売量の回復が見込まれるエレクトロニクス事業や、住宅事業、そして骨粗鬆症治療剤「テリボン™」や血液凝固阻止剤「リコモジュリン™」の販売が好調な医薬・医療事業を中心に、増益の見込みです。

### 6. 株主還元策について

当社は、連結業績をベースにして、適切な内部留保を図りつつ、継続的な収益拡大による継続的な増配を目指すことを基本方針としています。内部留保資金は、成長戦略の中心と定めている環境・エネルギー、住・暮らし、医療関連分野に向けた戦略的な投資や、新規事業創出のための研究開発費など、将来の収益拡大の実現に必要な資金として充当してまいります。

この方針のもと、当期の配当額につきましては、業績状況も踏まえ、前期より3円増配の年間14円とさせていただきます。来期につきましても、業績予想を踏まえ1株当たり14円を予定しています。今後も配当性向3割を目安に、「For Tomorrow 2015」の実現を通じて企業価値の向上を行い、株主のみなさまへ積極的な還元を図ってまいります。



事業活動の状況をお知らせします。



**旭化成ケミカルズ株式会社**

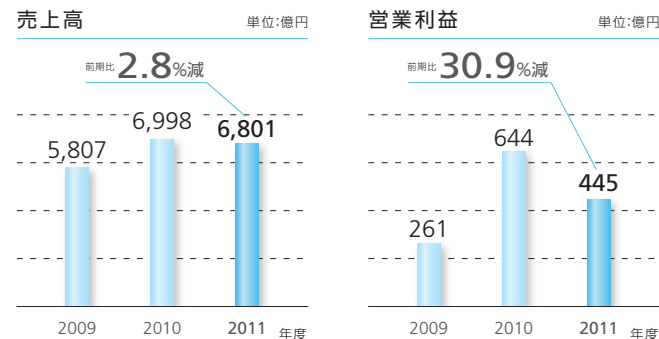
社長 小林 友二 資本金 30億円  
 主要製品 石化・モノマー系 (アクリロニトリル、スチレンモノマー、アジピン酸など)、ポリマー系 (エンジニアリング樹脂、ポリエチレン、合成ゴムなど)、高付加価値系 (医療用添加剤「セオラス™」、中空糸ろ過膜「マイクローザ™」、交換膜、「サランラップ™」など)

売上高は6,801億円で前期比197億円(2.8%)の減収となり、営業利益は445億円で前期比199億円(30.9%)の減益となりました。

石化・モノマー系事業は、下半期以降、中国を中心にアジア需要が後退したことに加え、ナフサをはじめとする原燃料価格の高騰や円高の影響を受け、アクリロニトリルやアジピン酸などのモノマー系製品の取引条件が大きく悪化したことなどから、業績は前期を下回りました。

ポリマー系事業は、震災による影響を受けたエンジニアリング樹脂が下半期に回復し、タイヤ向け合成ゴムも好調に推移したことなどから、業績は前期を上回りました。

高付加価値系事業は、「サランラップ™」などの消費材事業や添加剤事業が堅調に推移したことなどから、業績は前期を上回りました。



※当期より、ケミカル事業におけるナフサ転売に関する会計方針を変更した結果、前期までの売上高は従来に比べ、2009年度は414億円、2010年度は424億円、それぞれ減少しました。なお、本件による営業利益への影響はありません。

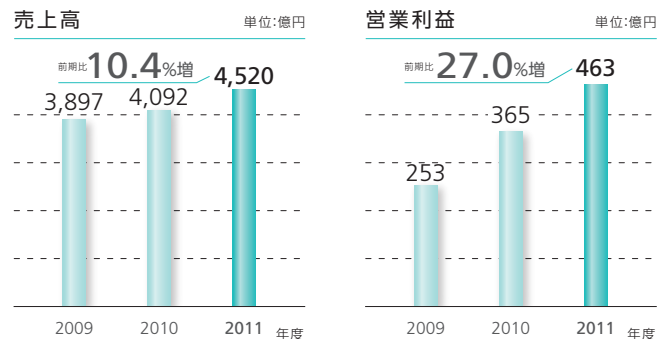


**旭化成ホームズ株式会社**

社長 平居 正仁 資本金 32億5千万円  
 主要製品・事業 「ヘーベルハウス™」、「ヘーベルメゾン™」、マンション事業、都市開発事業、リフォーム事業、不動産流通事業、住宅ローン事業など

売上高は4,520億円で前期比427億円(10.4%)の増収となり、営業利益は463億円で前期比99億円(27.0%)の増益となりました。なお、当期の建築請負事業の受注実績については、前期比174億円増加し3,719億円となりました。

建築請負事業は、受注が好調に推移した戸建住宅「ヘーベルハウス™」や集合住宅「ヘーベルメゾン™」の引渡戸数が増加したことなどから、業績は前期を上回りました。分譲事業はほぼ前期並みでしたが、住宅周辺事業は不動産賃貸事業が好調に推移したことや、リフォーム事業が順調に拡大したことなどから、業績は前期を上回りました。



**旭化成ファーマ株式会社**

社長 浅野 敏雄 資本金 30億円  
 主要製品 医療用医薬品 (血液凝固阻止剤「リコモジュリン™」、骨粗鬆症治療剤「テリボン™」、排尿障害改善剤「フリバスタ™」など)

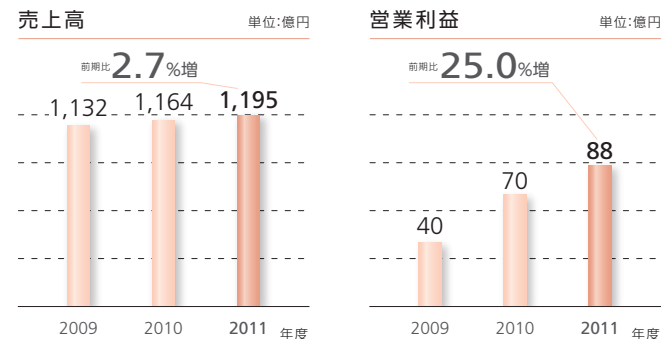
**旭化成メディカル株式会社**

社長 柴田 豊 資本金 30億円  
 主要製品 ポリスルホン膜人工腎臓「APS™」、アフエレスス (血液浄化療法) 関連機器、ウイルス除去フィルター「プラノバ™」など

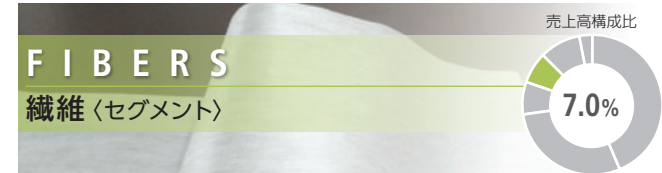
売上高は1,195億円で前期比31億円(2.7%)の増収となり、営業利益は88億円で前期比18億円(25.0%)の増益となりました。

医療事業は、MR(医薬情報担当者)の増強や研究開発費の増加により固定費が増加したものの、血液凝固阻止剤「リコモジュリン™」や昨年11月に上市した骨粗鬆症治療剤「テリボン™」の販売が好調に推移したことなどから、業績は前期を上回りました。

医療事業は、各製品が円高の影響を受けましたが、ウイルス除去フィルター「プラノバ™」の販売量が増加したことなどにより、業績はほぼ前期並みでした。



※2012年4月1日付で旭化成クラレメディカルを旭化成メディカルに統合しました。

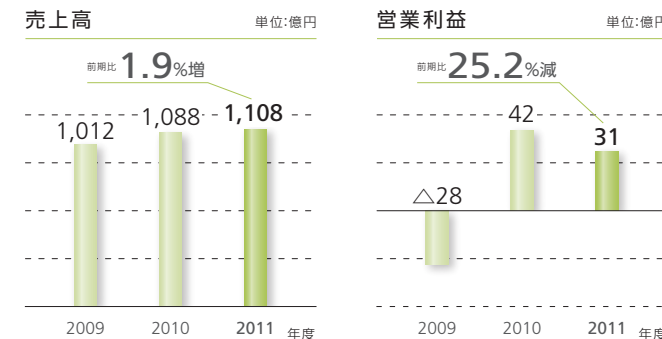


**旭化成せんい株式会社**

社長 高梨 利雄 資本金 30億円  
 主要製品 ポリウレタン弾性繊維「ロイカ™」、再生セルロース繊維「ベンベルグ™」、スパンボンド不織布、ナイロン66繊維「レオナ™」など

売上高は1,108億円で前期比21億円(1.9%)の増収となり、営業利益は31億円で前期比11億円(25.2%)の減益となりました。

オムツ用途向けスパンボンド不織布や、エアバッグ用途を中心としたナイロン66繊維「レオナ™」などで販売量が増加し、再生セルロース繊維「ベンベルグ™」も堅調に推移したものの、各製品で円高や原燃料価格高騰の影響を受けたことにより、業績は前期を下回りました。







**旭化成エレクトロニクス株式会社**

社長 鴻巣 誠 資本金 30億円  
主要製品 ミクスドシグナルLSI、ホール素子など

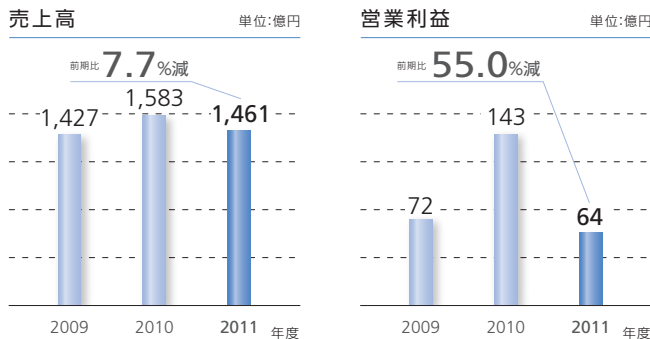
**旭化成イーマテリアルズ株式会社**

社長 太田 哲朗 資本金 30億円  
主要製品 リチウムイオン二次電池用セパレータ「ハイポア™」、フォトマスク防塵保護膜ペリクル、感光性ドライフィルムレジスト「サンフォート™」など

売上高は1,461億円で前期比122億円(7.7%)の減収となり、営業利益は64億円で前期比78億円(55.0%)の減益となりました。

電子部品系事業は、スマートフォン向けミクスドシグナルLSIなどの販売は堅調に推移しましたが、各製品が全体的な事業環境の悪化などによる販売量の伸び悩みや、販売価格の下落、円高の影響などを強く受け、業績は前期を下回りました。

電子材料系事業は、リチウムイオン二次電池用セパレータ「ハイポア™」を中心に販売量が増加しましたが、販売価格の下落や原燃料価格高騰の影響により、業績は前期を下回りました。

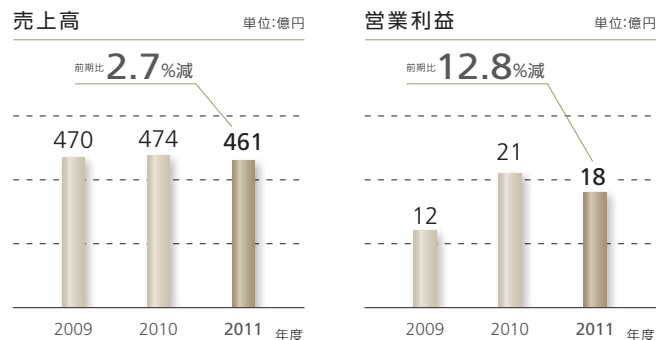


**旭化成建材株式会社**

社長 前田 富弘 資本金 30億円  
主要製品 軽量気泡コンクリート「ヘーベル™」、フェノールフォーム断熱材「ネオマ™フォーム」・「ジュピー™」、パイル、鉄骨構造用資材など

売上高は461億円で前期比13億円(2.7%)の減収となり、営業利益は18億円で前期比3億円(12.8%)の減益となりました。

住建事業は、軽量気泡コンクリート(ALC)「ヘーベル™」の販売量および販売価格が回復基調にあったものの、断熱材事業において住宅エコポイントなどの政策の影響が落ち着いたことや、基礎事業が低調だったことなどから、業績は前期を下回りました。



**<その他>売上高構成比1.3%**  
エンジニアリング事業や人材派遣業などの売上高は186億円で前期比25億円(15.9%)の増収となり、営業利益は30億円で前期比13億円(74.0%)の増益となりました。

# CLOSE UP

## 【ZOLL社の買収について】

2012年4月、米国の大手救命救急医療機器メーカーであるZOLL社を、NASDAQ市場での株式公開買い付けおよび合併手続きを経て、22.1億米ドル(約1,830億円)で買収しました。これは、中期経営計画で推進している「これからの医療」領域でターゲットとしている、救命救急医療(クリティカルケア)への本格参入を図るものです。

ZOLL社は、生命蘇生技術をコアテクノロジーとした会社で、全米トップシェアのプロ向け除細動器や、心肺停止リスクがある患者向けの着用式除細動器「LifeVest™」など、高成長製品を展開していることに加え、製品開発から臨床開発、薬事承認、製造・品質管理までの一連の優れた事業基盤を有しています。

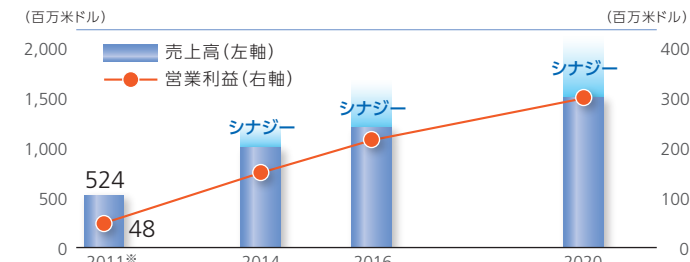
今回の買収を機に、クリティカルケアを当社の新たな成長領域と位置付け、旭化成ファーマ・旭化成メディカルと合わせた3社でヘルスケア事業を将来のコア事業の一つに育てていきます。



**◆会社概要**

会社名	ZOLL Medical Corporation
設立	1980年
拠点	本社: 米国マサチューセッツ州チェルムズフォード ペンシルバニア州ピッツバーグ、カリフォルニア州サニーベール他
CEO	Richard A. Packer
従業員数	1,908名(2011年10月2日時点)
当社との関わり	・2011年8月「ZOLL AED Plus™」の日本での販売を開始 ・その後、両マネジメント間で交流を深め買収に合意 ・2012年4月に買収し、100%連結子会社化を完了

**◆クリティカルケア事業の拡大シナリオ**



※2011年度はZOLL社の決算期(10年10月~11年9月)、以降は4月~3月期

**◆ZOLL社の製品例**



- (左) 「ZOLL AED Plus™」: ガイド機能付き自動体外式除細動器
- (中央) 「LifeVest™」: 世界唯一の着用式除細動器
- (右) 「Thermogard™」: 血管内冷却法による体温マネジメント機器

TOPICS ●旭化成 ●ケミカル ●住宅 ●医薬・医療 ●繊維 ●エレクトロニクス ●建材

●「ヘーベルハウス™ そらのま+ (プラス)」新発売

旭化成ホームズは、比較的小規模な敷地に建設される2階建住宅向けに「ヘーベルハウス™ そらのま+ (プラス)」を発売しました。2階のリビングに続く一角に「そらのま」と名付けた半屋外空間を設置することで、プライバシーを確保しながら光や風など自然の恵みを取り入れる心地よい暮らしを提案します。



- シンガポールでのエコタイヤ向け合成ゴム工場起工式を開催
- 「ヘーベルメゾン™+ わん+にゃん」リニューアル発売

●リチウムイオンキャパシタ事業の合併会社設立

旭化成は、次世代の蓄電デバイスとして需要拡大が見込まれているリチウムイオンキャパシタについて、両社の優位性ある技術を融合させ市場創出を加速化すべく、FDK株式会社と合併会社を設立しました。

- がん治療を目的としたテラ社との共同研究開発を開始
- 骨粗鬆症治療剤「テリボン™」の国内製造販売承認を取得

●中国での植樹プロジェクトがNGO団体の認定を取得

●新薬の臨床試験などを行う米国アルチザン社を完全子会社化

●「ヘーベルハウス™ スカイコテージのある家 天空こども城」新発売



●シンガポールでのエコタイヤ向け合成ゴムの第2期工場建設決定

旭化成ケミカルズは、エコタイヤ向けに需要が拡大している合成ゴムについて、シンガポールにおける第2期目の工場を建設することを決定しました。更なる能力増強の検討も進め、グローバルリーディング事業としての地位を確立していきます。

- 「ヘーベルメゾン™ 母力(BORIKI)」を開発
- 抗ヘルペスウイルス剤「ファムビル™」の効能・効果を追加申請

●米国ZOLL社の買収および連結子会社化

旭化成は、米国における大手救命救急医療機器メーカーであるZOLL社を22.1億米ドル(約1,830億円)で買収することを決定し、公開買付けおよび合併手続きを経て4月に当社の100%連結子会社としました。

●フェノールフォーム断熱材「ネオマ™フォーム」の能力増強を決定

旭化成建材は、政府の住宅省エネ基準義務化などにより、今後飛躍的な需要拡大が見込まれるフェノールフォーム断熱材「ネオマ™フォーム」の生産能力を増強することを決定しました。

2011 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 2012 1月 2月 3月 4月

●サウジアラビアにおけるアクリロニトリル事業化検討のための合併会社設立を決定

●高難燃性と高耐熱性を兼ね備えた変性PPE発泡ビーズ「サンフォース™」を開発



●排尿障害改善剤「フリバス™」の韓国における販売承認を取得

●新中期経営計画「For Tomorrow 2015」を発表

●米国ZOLL社の「ZOLL AED Plus™」日本独占販売を開始

●不動産関連事業を統合し「旭化成不動産レジデンス」として新たにスタート

●第9回「旭化成・中国ファッションデザイナークリエイティブ大賞」開催



●骨粗鬆症治療剤「テリボン™」皮下注用 56.5µg 発売  
旭化成ファーマは、高齢化の進展に伴い増加する骨粗鬆症を適応症とする「テリボン™」皮下注用 56.5µg を発売しました。週1回の投与で骨形成および骨強度の向上を促進し、社会的な問題となっている骨粗鬆症の治療に大きく貢献することを期待しています。



●伸張により発熱する高機能素材「伸張発熱 スパリエル™」を開発  
旭化成せんいは、快適さやエコ意識の高まりから市場が拡大している保温素材について、スパンデックス繊維「ロイカ™」の高機能差別糸と高度な編成技術を駆使した新素材を開発しました。

●紫外線LEDの開発などを行う米国Crystal IS社を完全子会社化

●旭化成水環境基金 2011 表彰式を実施

●携帯機器向け6軸電子コンパス新製品の発売  
旭化成エレクトロニクスは、スマートフォンやタブレット型端末などの携帯機器向けに高い市場シェアを誇る電子コンパス事業において、3軸電子コンパスとアナログ・デバイス社の3軸加速度センサを1つのパッケージに集積した6軸電子コンパスの新製品「AK8978」を開発しました。



●「Frosch™」ブランド食器用洗剤4種類を発売

●韓国におけるアセトニトリルプラント新設を決定  
●第10回「旭化成・中国ファッションデザイナークリエイティブ大賞」開催

●旭化成クラレメディカルを旭化成メディカルに統合

POINT

①	流動資産	たな卸資産が230億円増加しましたが、現金及び預金が374億円、受取手形及び売掛金が74億円減少したことなどから、前期比339億円(4.5%)減少し、7,218億円となりました。
②	固定資産	無形固定資産が141億円、保有株式の時価が上昇したことなどにより投資有価証券が112億円増加したことなどから、前期比186億円(2.8%)増加し、6,888億円となりました。
③	流動負債	短期借入金が344億円減少したことなどから、前期比342億円(7.1%)減少し、4,496億円となりました。
④	純資産	配当の支払182億円の減少があったものの、当期純利益を558億円計上したことや、その他有価証券評価差額金が105億円増加したことなどから、当期末の純資産は前期末の6,756億円から437億円(6.5%)増加し、7,193億円になりました。その結果、1株当たり純資産は前期比31円14銭増加し505円72銭となり、自己資本比率は前期末の46.5%から50.1%となりました。D/Eレシオは、前期末から0.12ポイント改善し、0.26となりました。

連結貸借対照表(要旨)

単位:億円

科目	前期 2011年3月31日現在	当期 2012年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
① 流動資産	7,557	7,218
② 固定資産	6,702	6,888
有形固定資産	4,184	4,161
無形固定資産	311	452
投資その他の資産	2,208	2,275
<b>資産合計</b>	<b>14,259</b>	<b>14,106</b>
<b>負債の部</b>		
③ 流動負債	4,838	4,496
固定負債	2,665	2,417
<b>負債合計</b>	<b>7,503</b>	<b>6,913</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	6,594	6,968
資本金	1,034	1,034
資本剰余金	794	794
利益剰余金	4,787	5,164
自己株式	△ 21	△ 24
その他の包括利益累計額	42	100
少数株主持分	120	124
④ <b>純資産合計</b>	<b>6,756</b>	<b>7,193</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>14,259</b>	<b>14,106</b>

連結損益計算書(要旨)

単位:億円

科目	前期 2010年4月1日～ 2011年3月31日	当期 2011年4月1日～ 2012年3月31日
売上高	15,559	15,732
売上原価	11,512	11,790
売上総利益	4,047	3,943
販売費及び一般管理費	2,818	2,900
<b>営業利益</b>	<b>1,229</b>	<b>1,043</b>
営業外収益	99	108
営業外費用	146	75
<b>経常利益</b>	<b>1,182</b>	<b>1,076</b>
特別利益	17	30
特別損失	216	157
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>983</b>	<b>949</b>
法人税、住民税及び事業税	396	312
法人税等調整額	△ 30	68
少数株主損益調整前当期純利益	617	569
少数株主損益	損 14	損 11
<b>当期純利益</b>	<b>603</b>	<b>558</b>

連結株主資本等変動計算書(要旨) (2011年4月1日～2012年3月31日)

単位:億円

	株主資本					その他の包括利益累計額合計	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
2011年4月1日残高	1,034	794	4,787	△ 21	6,594	42	120	6,756
当期中の変動額								
剰余金の配当			△ 182		△ 182			△ 182
当期純利益			558		558			558
自己株式の取得				△ 3	△ 3			△ 3
自己株式の処分		0		0	0			0
持分法の適用範囲の変動			△ 1		△ 1			△ 1
会社分割による増加			1		1			1
関係会社の報告期間変更に伴う増減			2		2			2
株主資本以外の項目の当期中の変動額(純額)						58	4	62
当期中の変動額合計	—	0	377	△ 3	374	58	4	437
2012年3月31日残高	1,034	794	5,164	△ 24	6,968	100	124	7,193

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位:億円

科目	前期 2010年4月1日～ 2011年3月31日	当期 2011年4月1日～ 2012年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,481	1,413
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 788	△ 895
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 261	△ 910
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 27	△ 8
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	404	△ 401
現金及び現金同等物の期首残高	931	1,345
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	9	15
関係会社の報告期間変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	—	5
現金及び現金同等物の期末残高	1,345	964



当期の決算をご報告します。

旭化成株式会社

貸借対照表(要旨)

科 目	単位: 億円	
	前 期 2011年3月31日現在	当 期 2012年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	2,203	3,681
固定資産	4,893	4,999
有形固定資産	726	728
無形固定資産	36	81
投資その他の資産	4,131	4,190
<b>資産合計</b>	<b>7,096</b>	<b>8,680</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	1,850	3,297
固定負債	1,417	1,208
<b>負債合計</b>	<b>3,266</b>	<b>4,505</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	3,617	3,881
資本金	1,034	1,034
資本剰余金	794	794
利益剰余金	1,810	2,077
自己株式	△ 21	△ 24
評価・換算差額等	213	293
<b>純資産合計</b>	<b>3,830</b>	<b>4,175</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>7,096</b>	<b>8,680</b>

損益計算書(要旨)

科 目	単位: 億円	
	前 期 2010年4月 1 日～ 2011年3月31日	当 期 2011年4月 1 日～ 2012年3月31日
営業収益	290	595
一般管理費	148	173
営業利益	142	423
営業外収益	45	48
営業外費用	39	33
経常利益	148	438
特別利益	15	5
特別損失	33	26
税引前当期純利益	129	416
法人税、住民税及び事業税	△ 30	△ 31
法人税等調整額	3	△ 1
当期純利益	157	449

株主資本等変動計算書(要旨) (2011年4月1日～2012年3月31日)

	株 主 資 本					評価・換算 差 額 等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
2011年4月1日残高	1,034	794	1,810	△ 21	3,617	213	3,830
当期間中の変動額							
剰余金の配当			△ 182		△ 182		△ 182
当期純利益			449		449		449
自己株式の取得				△ 3	△ 3		△ 3
自己株式の処分		0		0	0		0
株主資本以外の項目の当期間中の変動額(純額)						81	81
当期間中の変動額合計	—	0	267	△ 3	264	81	345
2012年3月31日残高	1,034	794	2,077	△ 24	3,881	293	4,175

株式の状況をご報告します。

(2012年3月31日現在)

株式の状況

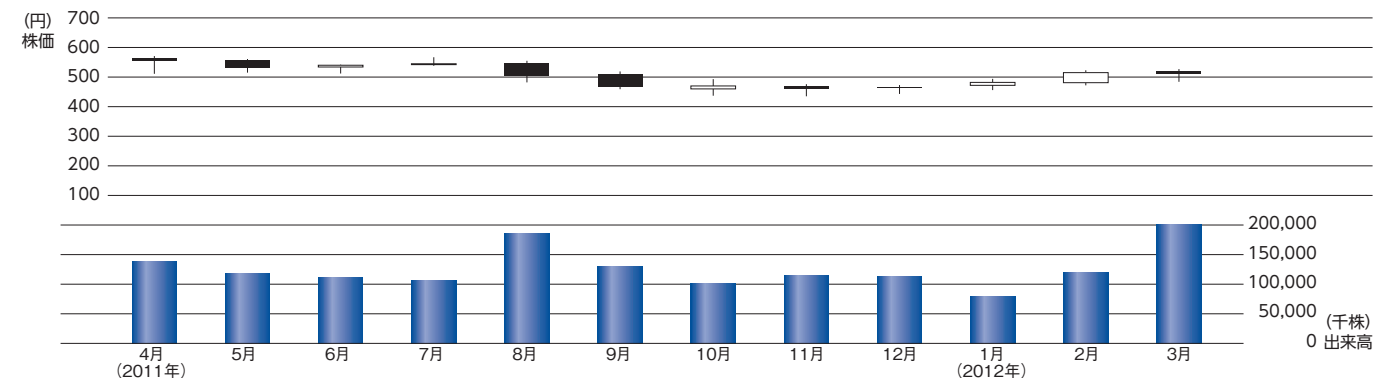
発行可能株式総数	4,000,000,000 株
発行済株式の総数	1,402,616,332 株
株主数	114,772 名

大株主(上位10名)

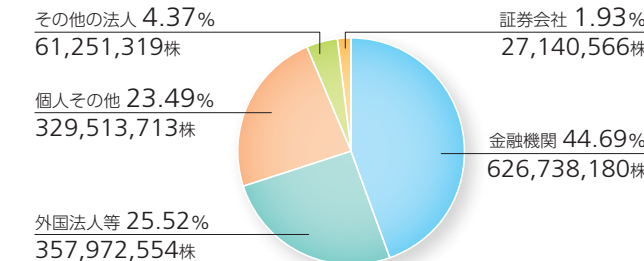
株 主 名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	76,615	5.48
日本生命保険相互会社	73,000	5.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	63,662	4.55
旭化成グループ従業員持株会	48,143	3.44
株式会社三井住友銀行	35,404	2.53
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT-TREATY CLIENTS	28,452	2.04
THE CHASE MANHATTAN BANK,N.A.LONDON SECS LENDING OMNIBUS ACCOUNT	26,684	1.91
株式会社みずほコーポレート銀行	20,269	1.45
東京海上日動火災保険株式会社	20,215	1.45
住友生命保険相互会社	19,517	1.40

(注) 持株比率については、自己株式(4,925,730株)を除いて算出しています。

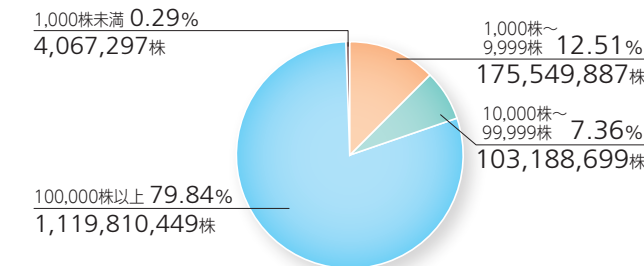
株価の推移(月足)



所有者別株式分布状況



所有株数別株式分布状況



会社概要 (2012年3月31日現在)

商号	旭化成株式会社 (Asahi Kasei Corporation)
設立年月日	1931年5月21日
資本金	103,388,521,767円
主要事業	繊維、化学、住宅、建材、エレクトロニクス、医薬・医療等の事業を行う会社の株式保有およびその事業活動の管理等
東京本社	〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地 神保町三井ビルディング 電話 (03) 3296-3000
大阪本社(本店)	〒530-8205 大阪市北区中之島三丁目3番23号 中之島ダイビル 電話 (06) 7636-3111
連結対象子会社	105社
持分法適用会社	46社
URL	http://www.asahi-kasei.co.jp

グループの概要 (2012年3月31日現在)

<p>事業会社</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>旭化成ケミカルズ株式会社</li> <li>旭化成ホームズ株式会社</li> <li>旭化成ファーマ株式会社</li> <li>旭化成クラレメディカル株式会社</li> <li>旭化成メディカル株式会社</li> <li>旭化成せんい株式会社</li> <li>旭化成エレクトロニクス株式会社</li> <li>旭化成イーマテリアルズ株式会社</li> <li>旭化成建材株式会社</li> </ul>	<p>主な研究所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>旭化成                     <ul style="list-style-type: none"> <li>先端技術研究所</li> <li>基盤技術研究所</li> <li>吉野研究室</li> <li>情報技術研究所</li> </ul> </li> <li>旭化成ケミカルズ                     <ul style="list-style-type: none"> <li>モノマー・触媒研究所</li> <li>化学・プロセス研究所</li> <li>樹脂総合研究所</li> </ul> </li> <li>旭化成エレクトロニクス                     <ul style="list-style-type: none"> <li>研究開発センター</li> <li>設計開発センター</li> <li>プロセス技術開発センター</li> </ul> </li> <li>旭化成イーマテリアルズ                     <ul style="list-style-type: none"> <li>新事業開発総部</li> </ul> </li> <li>旭化成ホームズ                     <ul style="list-style-type: none"> <li>住宅総合技術研究所</li> <li>暮らしノベーション研究所</li> </ul> </li> <li>旭化成ファーマ                     <ul style="list-style-type: none"> <li>医薬研究センター</li> </ul> </li> <li>旭化成クラレメディカル                     <ul style="list-style-type: none"> <li>医療製品開発本部</li> </ul> </li> <li>旭化成せんい                     <ul style="list-style-type: none"> <li>研究開発センター</li> </ul> </li> <li>旭化成エレクトロニクス                     <ul style="list-style-type: none"> <li>研究開発センター</li> </ul> </li> <li>旭化成イーマテリアルズ                     <ul style="list-style-type: none"> <li>新事業開発総部</li> </ul> </li> <li>旭化成建材                     <ul style="list-style-type: none"> <li>建材研究所</li> </ul> </li> </ul>
<p>主な工場地区</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>延岡地区、富士地区、守山地区、大仁地区、水島地区、川崎地区など</li> </ul>	
<p>主な営業拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東京、大阪、福岡、名古屋、札幌、北陸(福井)、広島、仙台、北京事務所、旭化成アメリカ(ニューヨーク)など</li> </ul>	



役員 (2012年6月28日現在)

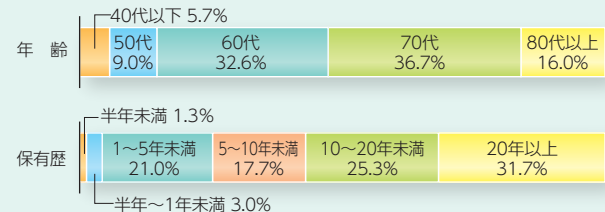
代表取締役会長	伊藤 一郎
代表取締役社長 社長執行役員	藤原 健嗣
取締役兼専務執行役員	藤原 孝二
取締役兼専務執行役員	吉田 安幸
取締役兼常務執行役員	小堀 秀毅
取締役兼上席執行役員	小林 宏史
取締役兼上席執行役員	中尾 正文
社外取締役	児玉 幸治
社外取締役	池田 守男
社外取締役	市野 紀生
常勤監査役	中前 憲二
常勤監査役	川崎 俊之
社外監査役	手塚 一男
社外監査役	青木 雄二
常務執行役員	水野 雄氏
上席執行役員	松居 龍
上席執行役員	角南 俊克
上席執行役員	根井伸一郎
上席執行役員	沢山 博史
執行役員	鴻巣 誠
執行役員	平居 正仁
執行役員	小林 友二
執行役員	浅野 敏雄
執行役員	外村正一郎
執行役員	和田 慶宏
執行役員	岡田 尚記

REPORT 株主アンケート結果のご報告

昨年12月に実施いたしました株主様へのアンケートに対し、8,819名の方々より、多数のご回答ならびに貴重なご意見をいただきました。その結果の一部をご紹介します。

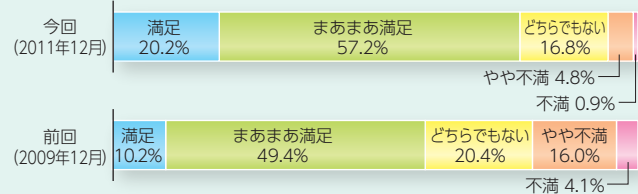
ご回答いただきました株主様

ご回答いただきました株主様は、60代以上が約8割、保有歴10年以上の長期保有の方が約6割となっております。ご支援に深く感謝申し上げます。

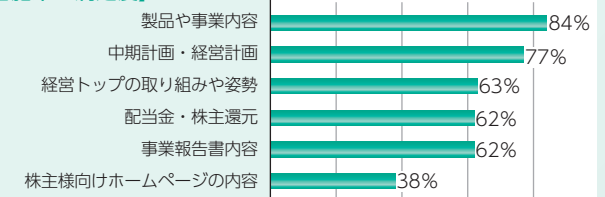


当社に対するご満足の度合い

当社に対する満足度では、前回のアンケートと比べ、より多くの株主のみなさまに「満足」、「まあまあ満足」とのお答えをいただきました。個別の項目では、特に「製品や事業内容」、「中期計画・経営計画」などについて、多くの方にご満足いただいております。



【各施策の満足度】



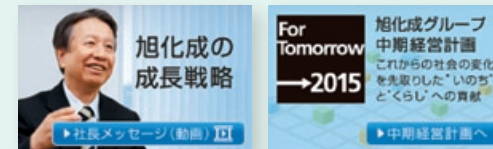
今後も、株主・投資家のみなさまとの重要なコミュニケーションの場として、本誌においてさまざまな情報をわかりやすく掲載してまいります。これからも定期的にアンケートを実施していきたいと考えておりますので、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

ご意見等



旭化成グループの中期計画と、その進捗状況を教えてください。

2011年度より中期経営計画「For Tomorrow 2015」に取り組み、これからの社会の変化を先取りし、「いのち」と「くらし」への更なる貢献を目指しております。詳細は、本誌3~6ページのトップメッセージをご覧ください。また、ホームページにて社長メッセージを動画にてご覧いただけます。どうぞご利用下さい。



安定的な配当金を希望しますが、今後の配当政策について教えてください。



2011年度の年間配当金は14円(前期比3円増配)といたしました。今後も、配当性向3割を目安に、「For Tomorrow 2015」の実現を通じて継続的に利益を拡大し、継続的な増配を目指します。

<お知らせ> ホームページをリニューアルしました

みなさまによりわかりやすく、ご利用いただきやすい情報提供を目指し、2012年1月にホームページを全面リニューアルいたしました。今後も内容の充実を図ってまいりますので、どうぞご利用下さい。

<http://www.asahi-kasei.co.jp>



## ■ 株式メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	毎年6月下旬開催		
1単元の株式の数	1,000株		
基準日	定時株主総会	毎年3月31日	
	期末配当金	毎年3月31日	
	中間配当金	毎年9月30日	
	そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日		
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社		
同事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 大阪市中央区北浜四丁目5番33号		
公告の方法	電子公告 <a href="http://www.asahi-kasei.co.jp/asahi/jp/koukoku/index.html">http://www.asahi-kasei.co.jp/asahi/jp/koukoku/index.html</a>		

## ■ 株式に関するお手続きについて

各お手続きのお問い合わせ先は以下のとおりとなっております。

お手続きの内容	証券会社の口座をご利用の株式についてのお問い合わせ先	特別口座※1)に記録された株式についてのお問い合わせ先
<ul style="list-style-type: none"> <li>住所、姓名などの変更</li> <li>配当金の受領方法の変更</li> <li>単元未満株式の買取、買増請求</li> </ul>	お取引証券会社	特別口座の口座管理機関 〔三井住友信託銀行株式会社〕 (証券代行部)
<ul style="list-style-type: none"> <li>特別口座から証券口座への振替請求</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>未払配当金の支払請求※2)</li> <li>その他のお問い合わせ</li> </ul>	株主名簿管理人 〔三井住友信託銀行株式会社 (証券代行部)〕	

(※1) 株券電子化以前に株式会社証券保管振替機構に預託されていなかった株式は、法令に従い、名義人名で当社が三井住友信託銀行株式会社に開設した特別口座に記録されております。特別口座に記録された株式のご売却には、証券会社の口座への振替手続きが必要です。

(※2) 配当金は、支払開始の日から満3年を経過しますと定款の規定によりお支払いできなくなりますので、お早めにお受け取りください。

### 【三井住友信託銀行株式会社 証券代行部】

郵便物の送付先 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10

電話照会先 ☎ 0120-176-417 (平日午前9時から午後5時)

インターネットホームページURL <http://www.smbt.jp/personal/agency/index.html>

### 【配当金受領方法について】

お受け取りには、下記の4つの方法がございます。安全、確実にお受け取りいただくために、口座振込の利用をお奨めいたします。(詳細は上記お問い合わせ先にご確認ください。)

- 登録配当金受領口座方式  
全てのご所有銘柄の配当金が、ご指定いただいた一つの金融機関口座に振込みとなります。
- 株式数比例配分方式  
ご利用の各証券口座に振込みとなります。  
(注. 当方式を採用している証券口座のみをご利用の株主様に限ります。)
- 個別銘柄指定方式  
ご所有の銘柄ごとにご指定いただいた金融機関口座に振込みとなります。
- 配当金領収証方式  
ゆうちょ銀行・郵便局の窓口で現金をお受け取りいただけます。

### 【単元未満株式(1~999株)の買取・買増について】

ご所有の株式の買取りの請求、または買増しの請求をしていただくことができます。なお、単元未満株式が特別口座で管理されている場合、手数料は無料です。(証券会社で管理されている場合の手数料は、お取引証券会社にお問い合わせください。)

- 買取請求  
ご所有の単元未満株式を、市場価格で買取る請求をしていただく制度です。  
(→ご所有の単元未満株式のご売却となります。)
- 買増請求  
ご所有の単元未満株式が単元株(1,000株)になるために必要な株式数を、市場価格で買増す請求をしていただく制度です。  
(→買増し後は、単元株式をご所有いただくこととなります。)

## 旭化成株式会社

〒530-8205 大阪市北区中之島三丁目3番23号 中之島ダイビル

<http://www.asahi-kasei.co.jp>

